

多職種連携のポイント

訪問看護ステーションすみ 秋山奈菜子

1. 連携とは？

「個人・家族が、安心して24時間安定したその人らしい生活を継続できることを目的とした関係者間の連携」のことをいう

2. 連携を円滑に進めるためのポイント

1) 目標の共有化

2) 情報の共有化 ⇒ タイムリーな情報共有 そのための適切な手段の選択 カンファレンスの重要性

【多職種のコミュニケーションに必要なこと】

① 枠づけ

- もしかしたら、他者に見えていることが自分には見えていないかもしれない、また、自分が見えていることが他者には見えていないかもしれないと仮定する
- 同意する必要はないが、なぜ他者がそう考え、そう行動しようとするのかわかろうとする

② アドボカシー

- 自分に見えていること、そしてなぜ自分がそう考えるのかを他者に見えるように手伝う
- 自分の思考のステップを知らせる

③ 尋ねる

- 他者がどんなふうに受け止めているのかを知ろうとする

学際的多職種連携教育プログラム

フォーク・アベ・マリコ氏講演資料より抜粋

3) 自己のポジショニングの明確化

「利用者とその家族に対して、何をどこまで誰がやるのか」を明確にすること

【ポジショニングを明確にするために】

- ① 自分自身の専門性を理解していること
- ② 他の専門職の専門性を理解していること
- ③ 自分の限界、他者の限界を知っていること

4) 信頼関係

【信頼関係を築いていくときのポイント】

- 様々な方法を使って連絡を密にとること（一方通行ではだめ）
- 相手が何を言おうとしているのかをしっかりと聴く姿勢を持つこと
- 相手を尊重すること
- 連携相手の要望していることにきちんと対応すること

3. 当事者にとっての連携の意味

1. 在宅療養に対する安心感

- ① いつでも相談できるという安心感
- ② 適切な対応が得られる安心感
- ③ タイムリーな対応が得られる安心感
- ④ 連絡を取り合っているという安心感

2. いろんな職種に支えてもらっているという精神的支え

3. 様々な専門職が専門に応じて対応してくれることへの満足感

4. 病状や療養環境が変わるといような、新たな課題と向き合う時の支え

(佐藤悦子、泉宗美恵、吉沢千登勢：主介護者である妻によって語られた看護の連携の意味、山梨県立看護大学紀要。2005) より一部抜粋

4. ACP について

1) 地域包括ケアシステムが目指すもの

疾病や障害を持って、住み慣れた地域、自分が望む生活の場で自分が望む暮らしを続け、人生の最期まで自分らしく生きることができる地域の構築

2) 自分らしく生きる

自分の人生に主体的に積極的に参画し、自分が望む暮らしを自分自身で創ること ⇒ 自立・自律

3) 支援者が実践する自立支援

療養者の意思や意向を軸にする・・・基本

4) ACP の定義

厚生労働省：人生の最終段階の医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセス

引用：人生の最終段階における医療・ケアの 決定プロセスに関するガイドライン 厚生労働省 改訂 平成30年3月

他、日本医師会・日本老年学会など様々な定義がある。

大切なこと (共通していること)

「本人が中心」「本人の価値観と意向の把握と尊重」「本人の望みと目標の大切さ」「医療・ケアチームで対応すること」「情報共有」「意思決定支援」「対話のプロセス」「繰り返し行うこと」「記録に残すこと」などが重要視されている

5) わたしの想いノートなど

ACP の実践において、本人の意向を把握する手段の一つとなる

